

総合診療の現状

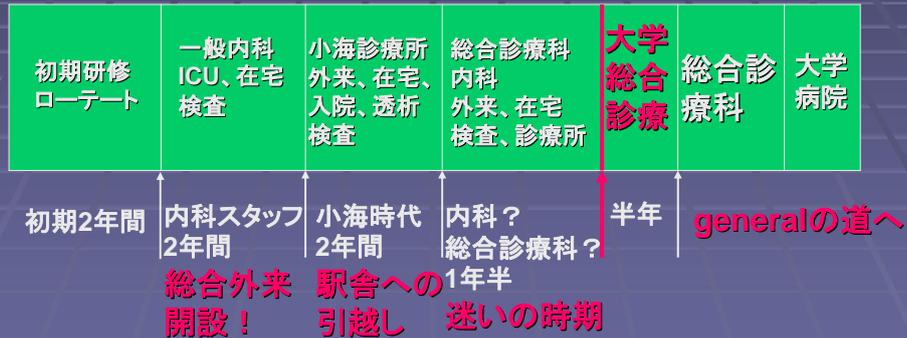
名古屋大学地域医療センター
川尻宏昭

自己紹介

- 平成6年に佐久総合病院へ
- 2年間の初期研修
(ローテート、内科はDM、消化管、呼吸器)
- 3・4年目は、佐久総合病院一般内科、ICU当番、
地域ケア科往診に参加(4年目に総合外来発足)
- 5・6年目は、病院付属小海診療所(有床、医師3名)
と週1回の総合外来
- 7年目は佐久総合病院総合診療科(外来・入院)
- 8年目後半の半年間は、名大総合診療部
- 9から13年目まで、佐久総合病院総合診療科
- 現在大学医学部附属病院のgeneral?部門

自己紹介

■ 私のこれまで



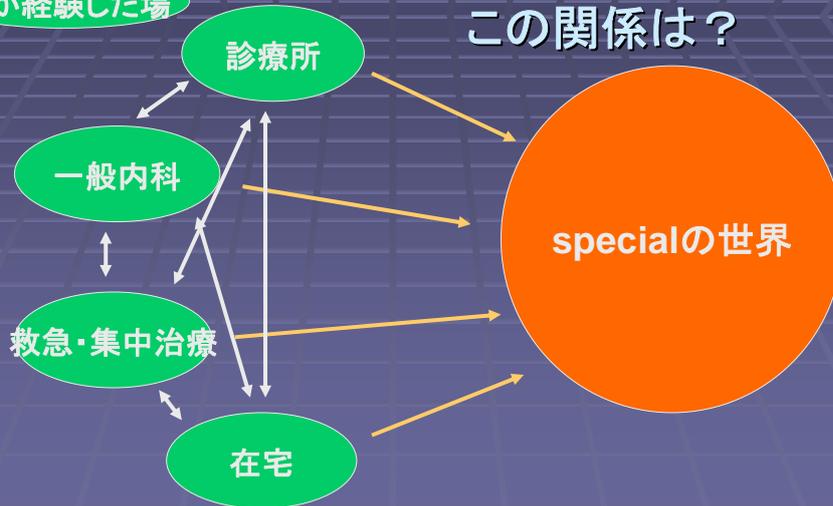
なぜgeneralの道に？ 1

- 「先生は何を専門にするの？」
「自分の専門は？」
- それまでの自分？（一般内科を中心に
在宅、救急、ICU、外来、診療所・・・）
- 「専門はこれなので・・・」というより、
「そこで何が求められているか？」
- 自分がしていることは、医療の中で
どう位置付けられているのか？
- キーワードは？「場の経験」？

自分がしてきたことは？

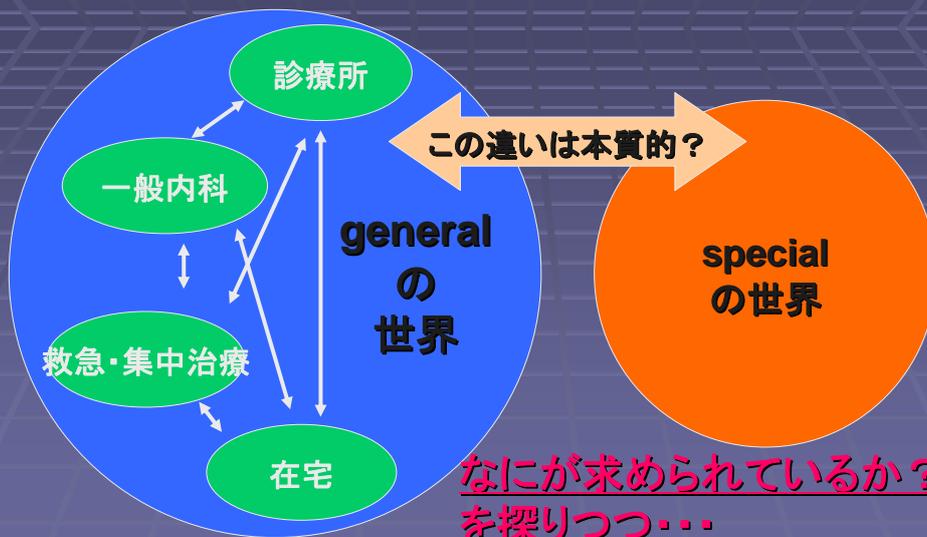
私が経験した場

この関係は？



医療のなかでのgeneral

この違いは本質的？



なぜgeneralの道に？2

- 医学教育とのかかわり
- 大学総合診療部での経験
(FPやPCという分野・generalistの臨床能力の
明確化・医学教育)
- 「医学教育(後輩を育てる)」から
「医療における教育」へ
- General分野と教育との関係
- 教育の持つ力
「様々な場の経験」と「教育との出会い」

総合診療の現状

- 本日の「総合診療」＝「病院の総合部門」
- 現状は？
- 学問的には「**総合内科(GIM)**」+FP,PC等
- 機能的には救急・PC(診療所、在宅)や教育部門との連携(主体)
- 施設によってかなり内容が違う(病院の規模・場所など＝「ニーズ」？・トップの考え方・・・)
- 総合診療のここ数年は・・・？
(浮き沈みとホスピタリストへの期待)

総合診療の現状

■ 佐久総合病院総合診療科



総合診療の今後？

- 病院の総合診療部門の必要性は？
(患者さんの複雑化、高齢化、医療システムの変化、医療経済、医療の質、教育……)
- 未来は明るい？ (今までの振り返りを！)
- 「ニーズ」は増えているような……。しかし……
- 成功の秘訣は？
 - ① 部門の力 = 何をするか？ その背景は？ 結果を出せるか？
 - ② 部門を支える力 = 組織の理解、社会的ニーズの汲み取り = 環境づくり
 - ③ 他に……？

日本のgeneralの今後？

- Generalといわれる部門がどうなってゆくのか？
(FP、PC、救急、GIM、在宅・・・)
- 共通した部分と違う部分を尊重
- 日本型generalを模索⇒医療崩壊？を救う？
(いままでの流れを尊重しつつ)
- 何が私たち(general)に求められているのか？
(「ニーズ」に対応してゆく能力)
- Specialとの協力(縦糸と横糸)
- 裾野の広いgeneralに！

Generalistとして私はこれから・・・

- 大学にきて思うこと
- 今まで行ってきたことのよい点、悪い点
- 佐久総合病院の限界、大学病院の限界
- 田舎と都会
- Specialistとは？
- 医療を取り巻く環境や様々な価値観
- Generalistとしてのこれから
(negativeな考え方とpositiveな考え方)
- 色々言っても、私はやっぱり・・・
- 自分の目指す医師像へ(generalistになるために)